

## 令和2年白老町議会総務文教常任委員会会議録

令和 2年 2月17日（月曜日）

開 会 午後 1時30分

閉 会 午後 3時05分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査

1. スポーツ振興の現状と課題について
- 

### ○出席委員（6名）

委員長	吉谷一孝君	副委員長	佐藤雄大君
委員	大淵紀夫君	委員	小西秀延君
委員	氏家裕治君	委員	前田博之君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事務局長	高橋裕明君
主 査	小野寺修男君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） ただいまより総務文教常任委員会を開会致します。

（午後1時30分）

---

○委員長（吉谷一孝君） 所管事務調査のスポーツ振興の現状と課題についてまず、1番目に現状についての意見、まとめ。2番目に課題についての意見、まとめになっているのですが、先に総務文教分科会の活動報告書が出来ておりますので、こちらのほうをまず目をとおしていただきたいと思えます。

では、分科会の活動報告につきましてご意見、ご質問ございましたら、お願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） なければ、このまま報告書として提出させていただきます。そして委員会報告を3月会議に提出させていただきたいと思えます。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 分科会としての活動報告はこれでいいと思えます。ただ、今回いろいろな課題が見えたと思うのです。こういった、例えば人口減少化においての子供たちの活動が随分狭まっているというのと、そういったことを見てもマラソン大会のように外から人を呼ぶという一つのアイデアみたいなものも出てきました。現実として白老町の人口減少というものに対して、もう少し深く入っていかないといけないのではないかと思うのです。分科会で見られた課題について、今度は常任委員会の中で政策的な部分でもう一步深掘りしたところが必要な気がするのです。その辺、どうでしょう。せつかく、ここまで活動団体さんと懇談を深めて、これで終わりというもの。特に大きな課題というもの見えてきました。施設の老朽化。果たして、その一つ一つに手をつけていけるのかどうかということもそうですし、議会として今後のスポーツ振興も含めて、どうあるべきなのかということを常任委員会の中で議論したほうがいいような気がするのですけれども。その辺は、どうでしょうか。

○委員長（吉谷一孝君） 今、氏家委員からご意見いただいた部分につきましては、今回はまず分科会として体育協会、スポーツ活動団体との分科会ということで懇談をもたせていただいて、その中で出てきた課題等々を整理させていただいたということと。今後につきましては年間スケジュールのほうでスポーツ団体の活動と今後についてとか、スポーツ施設の今後について、また白老町のスポーツ振興について提言をまとめていくということで今後、委員会を進めていこうと考えておりましたので、その辺のところは今後そういった議論を深めて、最後にはまちに提言をしていきたいという思いで考えておりました。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 年間スケジュールの中で、そういったことで進むとなってしまったから、今回の懇談をとおして明確に課題が出てきている、それに対してどうまちが取り組まなければいけないのかとか、そういったことが少しずつ見えてきているような気がしますので、年間スケジュールに沿ったことの中で、ぜひいい政策的な議論が出来て、まちに対してのきちんとした報告が出来

ればいいかと思えます。

○委員長（吉谷一孝君） 氏家委員のご意見をいただいて、今後の委員会運営に生かしていきたいと思えます。

それでは、所管事務調査の1つ目、スポーツ振興の現状と課題についての現状についての意見、まとめのほうに入りたいと思えます。現状についての意見、まとめですけれども、何かご意見ございますか。

小西委員。

○委員（小西秀延君） これまでに生涯学習課や体育協会、そしてまたスポーツ施設のほうからいろいろなお意見が出されて、課題があるということも今回の所管事務そして分科会でも浮き彫りになってきているところではあります。学校教育の中でのスポーツの振興が少し進んでいく中で見えないところもあったのです。体育協会さんのお話ですと中学校ではサッカークラブがあるという話を聞くのだけれども、実際あるのかどうなのか分からないという表現もされておりましたし、このままいくと白老町の中での中学校の野球チームの存続が危ぶまれているというようなお話も聞きますし、中学校現場での団体活動のスポーツというの、なかなか教育の一面とスポーツの一面と学校教育の現場ではあると思うのですが、そういうところの問題、課題というのをお話を聞いてみるというのも一つ、手なのかという気が今回はしておりました。

○委員長（吉谷一孝君） その辺のところは、小西委員言われたように分科会のほうでも出てきた中で教育行政を行っていく上で、そういったことについてどのようにやっていくかということも今後、考えて行政に聞いてどのような考え方をしているかということ。まして白老は野球でスポーツ振興を図ってきた経緯もありますので、そういう団体競技に対しての思いなどをまとめていくということも必要かと思っております。

ほかに、何かございますか。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 現状についてということであれば、一つは施設の改修を含めた存続等々を含めても議会が一つ考え方というか方向性を出すような段階にきているのではないかと。それは、どこへ行ってもあれを直してくれ、これがだめだという話ばかりなのです。体育館そのものが古くて50年もたっている。温水プールも屋根が落ちそうだと言っているでしょう。そんなに出来るのかという話です。そういうところを議会としてスポーツ行政を取り組むのであれば、どう考えるのかという辺りをきちんとしないとだめだと思ふ。あっちもこっちもいいよというわけにはいかないのではないかと思うのです。その辺スポーツ団体や行政は手を入れづらい、言われたらやらざるを得なくなるのだけれど。議会は財政問題含めて考えたときに本当に今のやり方でいいのかという辺りの議論がされないのだめなのではないかと思ふ。それは、2番目にもあるのだけれど。なぜ、そういうことを言うかということ本当に若い人たちの団体競技は出来ないわけです。それを理論的に小西委員が言ったように、理論的に学校でどうしても必要だという議論なのか。要望がないのにそれをやれと言ったって町内で野球でもサッカーでもチームを組めないのだから。そういう中で、それをやるために送り迎えをまちがやるのか。そういうレベルの話なのか。私は、やっぱり議会だから。突っ込んで話をしないと所管事務調査を取っても何の意味もないのではないかと思ふ。もう今

の段階では違うのではないかと。若い人や競技スポーツは、もう体育協会だってここはもうだめでしょう。そういうことから言ったら、町民から意見がある中で、例えばマラソンはほかから来る、白老町の体育協会として考えたときにそれでいいのかと。運営だけしてればいいのかと。本当に町民の体育力を上げるのかと。そこで今、一番問題になっているのが温水プールでしょう。ほかから来るのがどうなのかと。自主事業やって、苫小牧から半分以上来てやっていると。それはいいのかどうかというのが町民からも出ているのです。そういう段階に議会が入らないと、どこも入らないのだから。私は、現状と課題の部分では、そういうところがこのスポーツ振興のことを取り上げるのであれば、そこまでやるかどうか。やらないならやらないでいいから、はじめからやらないと議論するのならいいですけど。私は、そういう議論が議会で特に一年間かけてやったり、はじめて今回、総務文教常任委員会で取り組む、4年間あるわけですから。そうであれば、私はそういう視点でやれないものかというのは個人の議員としての考え方が、そこに問題点を考えて総務文教常任委員会が議論できるかどうか、そこで本当に方向を出すかどうかという辺りが、議会活動として問われているのではないかと考えております。

**○委員長（吉谷一孝君）** 今、大淵委員がおっしゃられるとおりでと思います。財政的なことを考えれば各施設、体育施設は7カ所いずれも25年から50年も経過しております。改修、もっと言うともうそろそろ新しくしなければならぬのではないかと状況になっているところであります。そこで今回、委員会としては本当に議会としてどのような結論付けて最終的に報告していくかということが最も重要になるとと思いますが、皆さまのご意見、またそれについてお伺いしたいと思います。氏家委員。

**○委員（氏家裕治君）** 大淵委員の言われたことは、そのとおりで思うし、だからこそ今回、議会でこの問題を取り上げたのではないのかと聞いていました。私は、外から白老町に足を運んでくれる方々、ウポポイも一つの契機になるかもしれないのだけれども。そういった方々が来ることよっての経済効果も一つ出てくるのではないかと思います。なおかつ、そういったこととリンクさせながら今後のスポーツ振興のあり方については、どのように経済効果の部分と白老町の町内の子供たちの健康にしてもスポーツのあり方にしても、そういったことに目を向けた両面から考えていかなければいけない気がします。スポーツ宣言しているまちとして、どこに趣を置くのかということが一番大事になってくると思うし、北見でやっているラグビーだとかほかの地区でもスポーツを主に例えば団体を呼んで経済効果につなげている、そういったものもインターネットなどでも見ても結構あると思います。それが、白老町にとってどうなのかは別にして、今そういった面では関東のほうでは夏場の時季に向こうでは練習がなかなか出来ないというのであれば、涼しい北海道にとそういったところにも経済効果も含めた何かを白老町で出来ないかということも議会の中でもんでみるべきではないかと。何をするにしても財源が必要になってくるし、今言ったとおり本当にあれもこれもと出来るのかということも含めて、議会の中でしっかり議論した中で今後、これは1年、2年で解決できる問題ではないでしょう。長期戦になる、まして公共施設の部分の建て替えだとかいろいろなものを含めての考え方になってしまうから。温水プールの現状を見てもそうです。あの屋根、どうしてあそこまで放っておいたのかという状況です。確かに地震の影響でボイラーだとか、そういったものの影響はあるのかもしれないけれど。もう少し手入れしていたら長く使えたのではないの

というところがあって、それに対しての財源というものが今までそこに投資できなかったという白老町の一番の大きな課題があるから、そう思っていました。今、大淵委員が言われたとおり、外からの来町者、それは一体何のために、まちとしてのどういった効果を生むのか、本来、白老町にあるべきスポーツ振興のあり方とは一体何なのかということは、最後もう一步掘り下げてしっかり考えていくべきだと思っていました。

○委員長（吉谷一孝君） ほかに、いかがですか。

佐藤副委員長。

○副委員長（佐藤雄大君） 分科会の意見、要望にも書いてあるのですけれども、先ほど小西委員からもお話ありましたけれども、学校教育でのという部分で小学校もそうですけれども中学校でも普段の授業や休み時間の学校で企画するイベントみたいなものでスポーツに対しての意欲、関心を高めることをやっているのかどうかも含めて必要なのではないかと思います。そもそも、団体スポーツに対しての意欲だったり面白さが分からない子も多いのではないかと思いますので、その辺も今後、追求していったほうがいいのかと感じております。

○委員長（吉谷一孝君） 確かに子供たちが団体スポーツをやる機会、野球にしるサッカーにしるきっかけというのがなかなか学校でたくさん生徒がいた時期は、誰かがサッカーをやっている、誰かが野球をやっている、誰かがバレーボールをやっているという、やっている子がいてその中で仲のいいお友達がやっているから僕もやってみようかということはあるかもしれないのですけれども。今、これだけ子供の数が少なくなってくると、そういうきっかけも少なくなっているということを見ると、授業の中できっかけをつくるというのも一つ方法かと思えます。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 先日、登別市議会との懇談がありました。登別の現状も同じなのだと。例えば、団体の野球、サッカーのチームがつかれないと。そういったところも、白老町だけで物事を考えるのではなく。広域的な交流の中で、今後、必要になってくるのではないかと。なぜかという、前田委員はよく質問していたと思うのだけれど、子供たちの体力、北海道の子供たちは全国の平均よりも低いのです。そういったことも含めて考えると、学校教育の現場の中でやるスポーツも確かに大事だし、子供たちにスポーツと健康志向みたいなものを取り合わせて今、マラソンなども興味を持って白老から富良野まで走りに行く人もいます。各地域の。そういったことが例えば白老だけではなくて登別も苫小牧も含めて、この地域の中で何か物事が考えられるのであれば、そういったことも含めて考えてみたいと思いました。

○委員長（吉谷一孝君） 先ほども出ていましたけれども、スポーツ振興に関して白老町民だけで考えるのか、白老町の子供だけで考えるのか、白老町民大人も含めて考えていくのか、温水プールのような施設が必要になるということを考えれば、白老町民だけのことと考えて、その施設を維持管理運営していくことが今後、可能なのかどうなのかということも考えていかなければ、その施設の必要性ということまでもつべきなのかどうなのかという議論にはなっていないかと思えます。そういった点も今後、きちんとまとめて議会として共通の認識を持って行政に提言できればと考えております。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） もう1点言うと、プールはプールでもほかのまち、苫小牧や登別と比較すると特異性があります。水がきれいだと。白老町近隣の立派なプールがあるのだけれども、水がきれいだからこっちに来るのだという話がこの間ありました。ろ過の性能がいいのかと思うのだけれども。特異性のあるものを果たして本当に維持管理していけるだけの今後のまちとしての財源として、そこに投資できるだけのものがあるのかとか、そのために何をしなければいけないのかということが明確になっていかないと、それを直そうという話にはなっていないと思うし、そこだけは中途半端ではなくて議会としてもきちんとした裏付けみたいなものを議会としても考えながら、議論していかなければならないと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 小西委員。

○委員（小西秀延君） 先ほど私、中学校現場でのスポーツ教育のお話もさせてもらったのですが。先ほど大淵委員からもお話でたとおり、行政で出来ることは限られてくると思うのです。教育現場は行政が頭に立ってやるものですから、そこに限界も生じてくるのかもしれませんが。もう一方で、スポーツ振興においては民間活力を生かしたスポーツ振興というのがあると思うのです。そういうところも幅広く調査分野も広げて、白老町全体をどのようなスポーツ振興のまちにしていくのだという方向性を見出していけるような調査を組み上げていったほうがいいのではないかと考えておりました。

○委員長（吉谷一孝君） 先ほどから出てくるのは、あれもこれもは無理だということを考えれば、行政だけでやるとなると、やれることに限界がきてしまうので、小西委員が言われたようなことも視野に入れて今後、委員会としても検討していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

現状としては、人口が減っていく中で利用者数も減ってきている、スポーツ団体もそれに伴って減ってきている、少年団も少なくなってきたり施設の老朽化もかなり深刻な状況になってきているということになっております。そのほか、意見としては教育現場での団体スポーツへの関わり、取り組みなど、議会としての考え方、経済効果を考えた町民の健康と経済効果を考えた、例えるならば合宿誘致なども考える必要があるのではないかとということであるとか、民間活力を生かした方法を今後検討していく余地があるのではないかと意見が出ておりました。

そのほか、何かご意見あればお願いします。

前田委員。

○委員（前田博之君） 大淵委員も話していたのだけれど、現状の課題について話したのだけれど、3月会議で報告するのですか。今日聞いていて何を議論して所管事務調査の意見として、どうするかということが総花的でこれもありあれもありと言っているでしょう。学校は学校として学校教育方面からのスポーツ、町民のお年寄りや我々世代、あるいは成人的な人たちの生涯スポーツ、それと先ほども出ていたけれど指定管理が2カ所あるのだけれど、指定管理が施設の管理でいいのか本来、水泳にしても体育にしても町民のいろいろな生涯教育の中でスポーツとどうかかわっていくか、その普及や指導をするためにあるのか、管理だけすればいいのか、そうすれば教育委員会はどうかあるべきなのか。氏家委員も話していましたが、外貨を稼ぐためのスポーツにしたときに、それが本当に優先するべきなのか、今かけている人口減になってきている町民のお年寄りや成人、子供たち、そういうスポーツを盛んに指導する、育成する、あるいは自ら参加させる。そういう部分

の項目を整理して行って議論していかないと、結果的に目指すスポーツ振興とは分からなくなってくるのではないかと思うのですけれど。今日はどういう委員会の席なのか私も皆さんの意見を聞いているから、皆さんいろいろな話を出せばいいのかと思っていたのだけれども。それが複合的に絡んでくるのです。学校でもう先生方は部長や監督でスポーツをしなくていいとなっているのです。外部団体にお金を出してもいいからコーチを頼みなさい、監督を頼みなさいと。その上で白老町がスポーツ少年団を育成するのであれば、どういう役割をしないといけないか、そういうことを整理していかないと焦点がなくて総花的な話になって終わるのかと思うのだけれど。その辺、委員長長の整理の仕方を、今後のスケジュールの中でどういうことでやっていくのか、そういうことを一つずつ整理して組み立てていくのか。そうしないと、片一方ではマラソンを誘致すれとか、今のマラソンだって大渕委員が言葉を抑えて言っていますけれども。温水プールもそうだけれども。非常に町民からかけ離れてしまっているのです。ですから、町民から支持されない。町民がもっと生涯教育の中でまち全体のいい意味で町民が元気になる、元気をもらえるようなスポーツ振興のあり方というのを時代は変わってきているから。人口もこのままでいけば一番ピークからいけば、極端な話2万4,000人が1万6,000人だから。この前の総合計画だって25年まで3,000人減るのですよ。ことしから。年齢は上がるのだけれど年寄りも減っていく、働き手はいなくなる、子供も40人時代になってしまうと思うけれども。そういう中において、文化活動もそうだけれども、スポーツ、体力増進とか気持ちを軽くスポーツに参加して、少しでもまちが元気になるよという視点に目をもっていかなないと、公共施設の老朽化もあるけれども、そういうふうに焦点を絞って行って一つ議論していかないとと思うのだけれども。

**○委員長（吉谷一孝君）** 先ほどもお話ししましたように、年間スケジュールで今後も進めていくという中で、今日は現状についての意見をある程度出していただいた中で今後、進めていくものについて順次、課題を整理してまとめていくという方法をとりたいと考えております。今、前田委員から言われたように、全部を一度にやってしまうと、全部何でもかんでもということになると思うので今回、出していただいた意見をまず今回まとめさせていただいて、今後の活動、所管事務調査の中で項目を絞って検討して進めていくという方法をとっていきたいと考えておりました。

今回は1回目の所管事務調査なので、現状の把握ということではいろいろな施設を見ていった中、分科会で聞いてきた中で、その課題についてある程度、課題を出していくということの作業で考えておりました。その中で今後については、そのように進めていこうと考えております。

氏家委員。

**○委員（氏家裕治君）** 今、前田委員が言われたことは今まで皆さんから意見を出し合った中のまとめです。生涯学習について、白老町としての考え方というのは、どういう考え方を持つのかということだとか、学校スポーツ教育、健康志向も含めて今後の総まとめ的な、そういった角度で物事を見ていかないと、だめなのだと思いますが。そういった面で、いろいろな所管事務調査をとりながらやっていけばいいかと思いました。白老町の人口ビジョンを見ても1万2,000人、1万3,000人で止まるのか、例えば1万人を切ってもいいのかということになると。それを黙って指をくわえて見ているわけにはいかない。スポーツ振興というのは深いところにあると思うのです。本当に体の健康のことだけで考えて私たちがスポーツ振興というのは考えるべきなのか、若い人たちが住みや

すい、子育てのしやすいまちをつくるためにも、どこまでの人口というのをある程度一定の目標値を持って頑張っていけないといけないということも含めて、すごく深いテーマだと思うのです。人口減の問題はスポーツだけではないのです。スポーツというものに目を向けたときに、人口減を黙って見ていたら本当に1万人を切ってしまう。そういう話の中で今、前田委員が言われたとおり、学校も生涯学習も子供からお年寄りまで健康でいるためのスポーツを、どのように関心を持たせていくのか。関心がない人はほとんどスポーツに関心ないです。今の現状は、一部の人だけです。そういうことも含めて、どうあるべきなのか。スポーツ宣言都市の掲げたまちの姿勢をもう一回振り返ってみないと分からない話かもしれないです。今はそういうまちではないと思うのです。前田委員が言われたとおり、大きく3つくらいの視点から角度を絞って考えていければいいかと思いません。

○委員長（吉谷一孝君） そのほか、ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） 進め方だったのですけれども、現状と課題について分けて進めていこうと思ったのですけれども、課題も中に入ってきているので、同じようには進んではいたのですけれども、2番目の課題についてお話しにいきたいと思うのですけれども。今までの話の中では、団体が減ってきているだとか広域化だとか、このようなことも入ってきておりますし、施設の面で言うとその中でも出てきておりました。もっと言うと、そういうようなことになってきていますし、スポーツの意義についてというような意見も出てきております。これについて、そのほか課題について特に何かご意見があれば、お受けいたします。今までの中では大体、前回やった中でのものは意見が出てきているかと思いますが、そのほか何か足りない部分があれば、ご意見をお伺いしたいと思います。いかがですか。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。前田委員も先ほどから言っているとおり、まちとしての姿勢が一番大きな課題だと思います。まちとしての姿勢というものに対して、議会がしっかり議論していかないといけない部分だと思うので、まちとしてのスポーツ振興に対しての姿勢はしっかり考えていかないといけないところだと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） どうも、よく見えないのだけれど。要するにスケジュールでいけば、3月は懇談会の報告以外はしないということなのですか。それとも、何らかの報告はするというのですか。そういうことを、継続でずっとやっていくということなのか、報告するなら報告するような中身の議論でなければ、今のように総花的にいくらやってもどうにもならないです。具体的に言えば、報告するのであれば、このことを報告するから、これについてどうだという議論をしないだめでしょう。この間、見て来て私が勝手に思ったのは、生涯学習課はお金が見つからないのだと。ここ、議会だから。体育館に洋式トイレが1個しかない。少なくとも、あれだけトイレがあるのだから各トイレに1個ずつくらいつけないとだめではないかということも議会が言って、本当にそれを使ったらよかったなという声が聞こえるというような議会活動。もう一つ言えば、マラソンに来るのは商品がいいから来るのだと。ハンバーグと卵を出すから。ほかから集めるためにやっているのだ。



温水プールに行っても苫小牧から来ている人が半分です。これは、自主事業であそこを運営するためには大切だと分かります。本当にスポーツ都市宣言をしているまちとして考えたときに、それでいいのかということになります。議会だから、そういう議論をして、3月に報告するのなら、ここここは報告できるものからやったほうがいいと。そういう中で町の姿勢があぶり出されるわけです。例えば、子供はトイレが洋式でないとできないのです。議員は知らないと思います。例えば、報告するのだったらそういう議論をしながら全体の積み上げをしていかないかと思ってしまうのです。総花的にずっとやっていくというのなら、それならそれでもいいのです。そういう方法であれば、何を議論するのですか。氏家委員が言ったように人口問題をここで議論するののかといったら、そういうわけにはいかないでしょう。スポーツから見た側面はこうだけれどということは言えるけれども。スポーツで人口減少を食い止めるということは、出来るかもしれないけれど、はなはだ大変だと思うから。そういうふうに絞って議論したほうがいいと思います。報告するのならです。報告しないならしないやり方でいいと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 3月に報告するのは、この分科会活動のこの報告になっています。ここに課題や要望などが出ています。例えば今の言ったトイレの問題も出ています。こういったものを、現実的に今とっかかれるものとして一つの実績を残すのは、こういった活動報告をとおしながら団体との活動をとおしながら、こういうふうになったという一つの実績は残せると思います。ただ、一番大事なのはスポーツの面から見る人口問題、あらゆるものから見る人口問題に取り組んでいかないと、偏ったものにしかならないと思うのです。スポーツと人口減少は離すべきではないし、例えば白老のまちが何千人になったとしても、白老のまちというところに足を運ぶ人たちが増えて、一つの経済効果に結びつけていかなければいけないわけですから。スポーツというものに対しての、きちんとした姿勢を明確に大きな柱として掲げた中で経済効果が生み出されるのであれば、白老町でジュース1本買って帰る人がいたって、全然それは一つの経済効果につながっていくかもしれない。お金とスポーツ一緒にするなという話になるのかもしれないけれど。そうではなくて、スポーツから見る人口減少とか、そういったものが私は必要だと思うから言っているだけです。人口減少を切り離せと言うのなら問題はないし。ただ一応、今回はいろいろな課題が出てきた中で3月にする報告はこの活動報告だけ、分科会活動です。

○委員長（吉谷一孝君） 高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 今回、常任委員会に分科会がくっつきました。主には分科会は民間との懇談ということで仕切るとして、今回の常任委員会の所管事務としては前回、生涯学習課に話を聞いた、それから施設の視察もしたということと、団体との懇談、この3つを合わせて現状と課題という報告書をつくらないといけないと思います。例えば、人口が減ってきたという現状を踏まえて、こういう課題が出てきたと。解決策までは、今回はいかない。解決策は次回以降の所管でやっていこうというのが年間計画です。今回は、例えば人口が減ってきた中で活動が縮小してきたとか団体種目がなくなったとか、そういう課題を押さえていくというのが一つだし、施設が老朽化して改修ができないと、だからスポーツによって稼ぐ力もないと改修が進まないのではないかとということも話には出ましたけれども。そういうようなことを明確にしておいて、次の所管で解決策を探っ

ていこうというのが年間計画だったので、今回はあくまでも現場の現実と、それに出てきている課題をまとめるということが今回の所管事務です。

○委員長（吉谷一孝君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 例えば今、氏家委員が言ったようなことについて言えば、これはこういう議論になると思うのだ。要するに人口が減っていくという中でスポーツ政策をどうするか。町や議会がどう考えるか。減らさないためのスポーツ活動とは、どうあるべきかという、この議論だったらベースが違います。そういうことから議論しないとだめなのです。今の状況でいけば減っていくわけです。国立社会保障・人口問題研究所でいけば減るし、町の計画でも減るわけです。それに合わせた形でスポーツ行政がどうあるべきかという議論をここでするのか、減らさないための氏家委員がそう言っているのか分からないのだけれど、減らさないためにスポーツ行政がとっても大切だということであれば、交流人口を減らさないのか、地元の人口を減らさないのか、本当に地元の人口を減らさないためにスポーツ行政がどうあるべきかという議論をするのかといったら違うでしょう。こういうことを整理していかないと、議論にならないのだ。違うベースで話しているのだから。

○委員長（吉谷一孝君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 生涯学習課を呼んで聞いたから、その範疇のものに捉えるのか。今、人口の問題も出たけれども、1つに絞っても問題が出てくるのです。ということは、野球場などは今、5月の少年黒獅子大会くらいしか使っていない。あとは、たまに社会人が栄高校が来るか、ほとんどないのです。コスト計算したら、野球場の維持管理は相当です。役場でさえ、朝野球チーム7チームも8チームもあって使った、軟式野球部もあって使った、今はほとんど使っていないです。そういう人口減少、スポーツ人口が減ったと、施設のあり方はどうするのか、私はそういう部分の項目、審議する事項を絞っていかないと、みんなそれぞれの思いで散らばっていくのです。温水プールにしても皆さん現状を見て分かります。極論からいけば、屋根だけはないです。雨漏りしてきて、ここまできています。あれを直したら大変です。そして今、更衣室のほうもあまり暖房もきていないのです。そうすると、将来お金をかけないで、将来もう人口も減ってきた、もう閉館するか、冬の間を閉めて夏だけ開ける、逆に夏はいっぱい運動するから冬だけ開放してあげようとか、そこまで先ほど大淵委員も言ったけれども、議会とすればそういう現実を本当に誰も言わないのです。それを、みんなが情報を集めてきて、どうするのかということ整理して話さないと、結果的に温水プールも体育館もほかの施設があるのです。老朽化で整備すると何十億円、何百億円かかるのです。優先を生涯学習課がしたいと言ったって、町長がしないと言えば別なのだから。それも含めて本当に今、絞っていくというのはいっぱいあるのです。それを1つ2つに絞って、議会として真摯な意見をぶつけて改善要求させるかとか、そこまできかないと結果的に先ほどの話に戻ってしまうと思うのです。

○委員長（吉谷一孝君） 高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 今、言われたとおりだと思います。そういうことで協議して、3本か4本で集中的なものを課題として捉えて、次回から方策を考えていこうというのが基本的な進め方で、例えばこの前、生涯学習課が来ていたけれども昔はスポーツ課だったと、それが生涯学習課

になったと。そして、指定管理だとか委託して今の実態があると、そういう体制でいいのかどうかというのも問題になるかもしれないし、先ほど言ったように少年野球チームが10個もあったのが今は2個もしくは1個しかなくなるから試合の数も当然減るだろうし、球場の使用料も変わってきているのだという現状から、どういうふうにすべきかというのを探っていこうという、それを明確にしましょうというのが今回の形だと思います。

○委員長（吉谷一孝君） そうですね。今、局長から話しあったように今、出していただいて、これを正副委員長に任せていただいて、まずまとめさせていただいて次回については、またしばった形で議論を進めていきたいと考えていますが。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） そういう形にするのであれば、皆さんの意見を行って聞いて、現状と課題が一定限の意見が皆さんから出ているわけだから、そこからこういうものを取り組んでほしいということで、ここで一定限の議論して5項目出たら、それを正副委員長と局長が入って整理するのは構わないけれど、そういうふうにしなないと実態に合わない議論をしてもしょうがないわけです。今の段階で私が思っているのは、絶対に議論してほしいと思っていることは社会教育団体を、民間団体を1本にしてそこに補助金を出して、マンパワーが全体に波及する今、例えば具体的に言えば蔵だとか体育協会だとか文化空間だとか、こういう部分を1本化して、体育協会8割、文化連絡協議会が1割、蔵が1割でも何でもいいのです。相互にマンパワーが生かせるような仕組みにしなないと、人口が減っていったときには、そのようにしないと対応ができないのではないかとというのが私の考えです。例えば、指定管理者がどうなるのか、北吉原がどうなるのか、温水プールがどうなるのか、そういうことの中でマンパワーを生かせなかったら文化団体などは潰れてしまいます。私はそういうことを考えないとだめだと思う。それは、どこかがどんとやらないと行かないのです。登別だって帯広だってみんなやっているのです。だから、そういうことは1つ議論をぜひしてほしいと私は思っているから。それで、そういう意見もみんなから取り上げてほしいです。

○委員長（吉谷一孝君） 今、大淵委員からお話があったように各委員から中心になるようなテーマというものを出していただいて、またそういうことで進めていこうと思いますが、皆さまからのご意見をお伺いしたいと思います。

小西委員。

○委員（小西秀延君） 今、様々な1と2と現状についてと課題についてが混じったような議論になってしまいましたけれど、皆さんから今いろいろな意見が出ましたので、3月の報告に現状がこうになっていると、それをもっと深く調査しますという報告を出すのであれば1回、委員長と副委員長に今出た意見をまとめていただいて、こういう方向になりますというものを1回出していただいて、またみんなで話し合ったほうが早いのではないかと気がするのですが、いかがでしょうか。

○委員長（吉谷一孝君） ありがとうございます。小西委員からご意見伺いましたが、そのほかいかがでしょうか。

前田委員。

○委員（前田博之君） 1年間のスケジュールですよね。今、小西委員から話ありましかけれども。

どうも、それぞれ話を聞いても項目が多くて全部はしぼれないと思うのです。だから、3月に所管事務調査をどうしてもしないといけないのか、分科会報告でこういうことをしたということで、もう少し絞って整理したほうがいいのか。ここでまた、ばくっと押さえてこういうことがありましたと報告したって、ここでまた議論して整理されていけば違ってくるのではないかと思うので、どうしてもするというのなら別だけれども。1年間の調査になるのなら継続でもいいのではないか。もう少し議論をして、この3つなら3つだけやりましょうとか、絞ったほうがいいのか。もっとお互いに、その問題について皆さん私見あるから、情報を持って課題を整理してここをやりましょうということで、何月はこの問題をやりましょう、次の月はこれをやろうと何点かやって深く掘り下げて絞っていったほうがいいのか。ここで課題を挙げたとしても、その後には委員会で全部、議論できるわけではないわけでしょう。

○委員長（吉谷一孝君） 高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） イメージの問題で私も年計画をつくるときには、最初に第一段階目に現状と課題をしっかり把握しましょうと、その中で柱を見つけたら次に掘り下げて方策まで考えていきましょうというのが基本的な流れだったのです。年計画をつくるときに課題と方策を一段目にやって、団体と施設という大枠は出しているのですけれど、それは変わっても構わないと思っています。重要な柱が現状と課題で出てくれば。そういうことでいたので、今回の調査では次にやることも踏まえて何をテーマにしていくかというのは決めないと次の調査ができなくなるので、そこまではまとめていただきたいと思います。今回は、あくまでも現状と課題ということで止まっているのです。次に例えば団体活動と今後についてという方策論、施設の今後についてという方策論を予定はしているのです。何を解決策として持っていくかというところまでは出しておかないと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 暫時休憩いたします。

休 憩 午後2時33分

---

再 開 午後3時00分

○委員長（吉谷一孝君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

先ほど出てきていました、今後の進め方についてであります。出てきた意見の中では施設のあり方であったり、運営管理をどのようにしていくか、スポーツ振興についてということなのですが、スポーツと教育についてのかかわりであるとか、そのようなことを今後、やっていたらどうだという意見が出てきております。その中で報告する中で次にやっていく課題について決めて報告をしたいと考えておりますが、その辺についてのご意見あればお伺いしたいと思います。これから進めてほしいということがあれば、ご意見をお伺いしますが、もしないようであれば委員長、副委員長にお任せいただいて、それについてまた皆さんに今後のスケジュールとして正副委員長案を作成し見ていただいて、点検していただくということになりますが、いかがでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） そのように進めていきたいと思っております。

それでは、報告までのスケジュールであります。28日までに正副委員長案を作成いたしまして、

3月6日までに委員に回して点検していただくということでもあります。3月12日か13日までに委員会報告の確定をし次期、所管事務調査を決定したいと考えておりますが、いかがでしょうか。正副委員長案を見ていただいて、もう一度委員会を開くか開かないかありますが、いかがでしょうか。

小西委員。

○委員（小西秀延君） 今の課題をまとめたものを、みんなに見てもらって次期の所管とスケジュールをこういうふうやっていくということをつくるのですよね。どこかと打ち合わせをするということではないのであれば、集まらなくても文章を見て委員長、副委員長でご意見があれば訂正してもらえればよろしいのではないかと思いますけれども。

○委員長（吉谷一孝君） 今、小西委員のほうからご意見伺いましたが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） それでは、そのように進めさせていただきたいと思います。

次期の総務文教常任委員会につきましては、また追って連絡連絡するということで周知したいと思います。

---

#### ◎閉会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） それでは、本日の総務文教常任委員会を終了いたします。

（午後3時05分）